

福島市教育委員会臨時会会議録	
1 場 所	福島市役所8階 相談室
2 日 時	令和8年3月26日 午前10時00分
3 出席者	教育長 佐藤秀美 教育長職務代理者 渡辺慎太郎 委員 立花由里子 委員 宗形潤子
4 欠席した委員	委員 丹野友幸
5 説明のため出席した職員	教育部長 橋本江理 教育部次長兼教育総務課長 長南敏広 学校教育課長 芳賀沼 彰 教育総務課課長補佐兼庶務係長 森山 淳
6 議事内容及び経過	(1) 開 会 午前10時00分 (2) 日 程 本日1日間 (3) 署名人の決定 委員 渡辺委員 委員 宗形委員 (4) 記録係 教育総務課庶務係主査 渡邊貴博

1 議事	
議案第25号 福島市部活動地域展開・地域クラブ活動推進計画について	
学校教育課長（教育委員会臨時会提出事項P3、別冊①により説明）	
渡辺委員	2点ございます。1つ目は今ご説明いただいたビジョン、方向性については十分共感できるのですが、部活動のアウトプットとしての大会や、或いはコンクールとか、そういったものとの絡みで教育委員会側として何か大会の在り方に修正を加える、そもそも制度上、或いは主催者との関係、どこが主体なのかという関係で可能なかどうかということが1点お尋ねしたいところです。もう1点は今のビジョンについて、今現場で熱心に指導されている先生方のご理解をどう得るのか、得られるのかというところについてはどうなのかというところが2点目の質問となります。
学校教育課長	まず1点目ですが、教育委員会が主体となって開催している大会は基本にございませんで、我々が間に入って学校側の要望や実態に応じた取り組みというものを関係団体等にしっかりと繋いでいきたいと思えます。具体的にはクラブチームが例えば中体連に参加するように競技によって要件が変わってきていますので、そういったところの擦り合わせをしながら、子どもたちが、やりたいことをしっかりやれるような取り組みを進めていきたいと思っております。2点目の件ですけれども、部活動はマイナスの情報が多い中で、一定程度教育的な意義や存在価値は高いと思っております。そういったことが失われないように、またこれまで積み重ねてきた効果も引き継がれるようにしていきたいと

	思っております。そのためには新しくコーディネーターを入れながら新年度は学校や関係団体と繋いで、しっかりと教員がやりたいこともしっかりやれる、子どもたちにとって有意義なことはしっかり繋げていきたい、そのように関わっていきたいと思います。
立花委員	全体的にこの部活動を地域展開していくということに反対はないんですけども、そもそも今まで行っていた部活動というものが教育の一環としてということで取り扱われてきただろうと私は思っているんですけども、その際にそもそも土日に部活動をするということが必要だったのかなというのが1つあります。土日やらなければいけないものだったのだろうか、土日やるから先生たちが大変で地域展開しようという流れで考えていくと、それは違うのではないかなというのが1つあります。先程渡辺委員が仰ったことと同じで、大会等が土日にあるからとか、そういうことで、そこも部活動をしなければいけないという流れなのであれば、大元の大会の在り方とか、そういうところまで考えないと部活動の存続・継続というものは難しくなってしまうのかなというところが1つ思いました。もう1つ、アンケートの結果を見ると、常設部活動が少子化で減っているとなっていますが、減っている部活動というものは、おそらく複数人数でやらなければいけないもの、チームプレイをしなければならないものは少子化によって1つの単独校で組織できないということも出来てくると思いますが、色々見ていくと、必ずしもチーム・複数人数でやらなければならないものではない部活動も沢山あると思います。絵を描く、

	書道等は1人で出来るもの。それを含めての部活動、全部を包括しての部活動の在り方と言ってしまうところに、皆さんチームプレイのスポーツを念頭に置いていると思いますが、部活動の捉え方を考えた方が良いのではないかと感じました。そもそも地域展開した時に、子どもたちに色々なものを経験させたいのは分かりますが、実際地域展開した時に今のこの状況だとやらないという人の方が増えていくのではないかと。返って色々なものに接することが出来ない子どもたちが増えていってしまわないか、学校でやるからこそみんなが経験できたのに、これが地域に展開されていくと、やれる人はやる、やりたい人はやるけれどもやりたくない人はやらなくていいと話が進んでいくのは違うのではないかと心配しております。
学校教育課長	1つ目、土日に実施する必要性ですが、歴史的な経緯・慣習が大きいと思っております。かつて土曜日まで授業があって、土曜日の午後に活動をして、そして日曜日に部活動をしていたので、一週間ずっと活動をしておりました。それが段々お休みになってきておりますので、必ず週末にやらなければならないかという、そうではなく、実際現場でも全ての部活動が土曜日や週休日にやっているわけではないと思います。しかし今までやってきたから、これまでもこれからもやるのが当たり前だということではなくて、大会の在り方とか練習の制限というものもしっかり整えて、子どもたちの負担も考えながら進めているということですので、大会の在り方等についても、これから関係団体とも詰めなが

ら適切な在り方に向けて改善が進むものと考えております。2つ
目の減っている競技についてですが、1番考えなければならない
のは、例えば子どもたちが本当は1番野球をやりたいのに、自分
の学校の野球部が4人しかいないので出来ない、或いは部活動の
野球部が無くなってしまふ、それによつてもう野球が出来ない、
そういうところを何とか改善してあげたいと思つております。そ
ういうところから考えると、地域など受け皿が出来てくれば同一
の学校ではなくても、自分と同じやりたいものがやれる子どもた
ちが集まれるとは思つております。また個人について、私が学校
現場にいても例えば地域の方々から囲碁・将棋がすごく評価され
て、文部科学省でも言っているから囲碁部や将棋部を作ってくれ
ないかとか、或いは農業の部を作ってくれないかとか、そういう
申し出がございます。それはそういう申し出はありますけれども、
ニーズがどの程度あるのかにもよりますし、それを設置すると担
当者も同じように設置しなければならないということで、なかなか
簡単に出来ないことがありました。そういった意味で選択肢を
増やすという意味では、地域展開というものが1つの折衷案とし
て非常に良いのかな、やりたいことがやれるのが増えてくると思
つております。3つ目ですけれども部活動の教育的な意義という
ことで考えると、無くなってしまふとやらないということも出て
くると思います。ただ私としては、やらないという選択肢も1つ
だと思ひます。読書や、勉強するのも1つ。そうなる和我々も生
涯学習や色々なところと関係しながら民間の団体とも協力をして

	受け皿とか、やってみようというインセンティブとか雰囲気醸成 というの併せてやっていって、最終的に強制的にやらされるも のではなくて、子どもたちがやりたいことがやれる、そういった 放課後休日の時間を Re : デザインできるような取り組みに繋が れば良いなと考えております。
宗形委員	3つあります。1つ目がスライドの参加者の検討と持続可能性を 守る「ルール」について、会費及び保険が受益者負担ということ は子どもたちの家庭が負担すると思いますが、家庭の経済格差に よって子どもたちに影響があるということは想定されていると思 うので、その辺りのケアをどのようにされるのか。富山県南砺市 では部活動の地域移行を完全にやろうとしていて、その時に自分 がやりたい部活が遠い場所で行う場合に交通費をどうするかとい うところが考えられているところがあったので、そこが1つ気にな ったところでした。2つ目は子どもたちが自分のやりたいこと をやる時間にするという考えは面白いし、福島市が考えたことは 意味があると思いますが、総合的な学習の発展、自分で探求して いく形になれば良いと想定されていると思いますが、そういう子 どもたちの色々やっていくことを交流する場みたいなものをいず れ考えているのかというところが、子どもたちが自己発信の形で、 学校を越えて交流できる場があると良いと思いました。3つ目は こども家庭庁で出しているこども性暴力防止法についても考えら れていて、色んな方が子どもたちに活動に関わるになるので、福 島大学でも実習生をこども性暴力防止法のガイドラインに則って

	どのように扱っていくのかということについて今後考えていかなければ
	ならないということがあります、そのあたりの対応をどのよう
	に準備されているのか聞きたいと思いました。
学校教育課長	1つ目の経済的な格差について、非常に重要な問題だと思ってお
	ります。富山県南砺市はもちろんのこと、全国各地の取り組みも
	研究しているところですが、基礎自治体として規模が小さいとこ
	ろはバスを回したり、色々な補助が出来ていると思いますが、本
	市の場合だとそこが1番のネックだと思っております。例えば交
	通手段であったり、活動の金銭的経済的な補助をどうしていくの
	か、或いは指導者側のライセンスの更新費や取得に向けたサポー
	トをどうしていくのかということで、経済的な補助をどうしてい
	くのかというところをまず考えているところではあります。文科
	省の補助金等も有効に活用できるようしっかりと研究をしながら
	進めていきたいと思いますが、根本的になかなかお金で解決する
	という簡単なことではないと思っているので、そういったものに
	頼らない持続可能な在り方というものもその一方で並行して考え
	ていきたいと思います。2つ目ですが、自由な時間で探究的な学
	び、こういったことが出来る子どもたちを増やしていきたいし、
	そういった場になればと思っております。その先として交流の場
	の創設というものも1つのアイデアだと思います。その中で
	我々も考え方として公助として全部こちらでお膳立てしていく仕
	組みから一歩脱却して、こういうことをやりたいからこんな発表
	の場を作りたい、そこを外からサポートしますとか、経済的にサ

	<p>ポートします、人材的なサポートをしますというような、やりたいことを支えるような土壌も併せて検討していく必要があると思っております。必ずしも教育委員会が最初から作るというわけではなく、幅広く考えていきたいと考えております。最後の性暴力について、性暴力だけではなくて、体罰など幅広く含めたうえで指導者側の質の向上というものは求められますし、継続的に担保というものは必要だと思っております。こういったコンプライアンスの徹底という意味では、研修をしっかりと出来るようにしなければならないので、それはこちらの方でもしっかりと整備をして、オンデマンドなどでしっかりと常時見れるような形とか、或いは指導者登録の際に要件に定めるようにして、しっかりとそういったところは徹底して、子どもたちに質の高い指導が提供できるよう、豊かな学びの場出来るように進めていきたいと思っております。</p>
渡辺委員	<p>2点あります。1点目は何故土日に部活動をやるのかというところの話で、今仰ったような慣習的なものもあると思いますが、やはりそれだけではなくて、いい意味でも良くない意味でも部活動を指導する先生のモチベーションはかなり大きく影響していると思います。決してスポーツ系だけではなくて、音楽系の合奏系の部活動であればそれは出来るだけ練習時間を取って出来るだけパートの練習もやり、合わせの練習もやった方が音楽としては精緻なものになるのは明らかなわけで、それを目指そうとすれば、必ずしもコンクールがなくても、結局練習時間はあればあっただけ</p>

良いし、スポーツもそうなのかもしれませんが、音楽も休めば休
んだだけ力は落ちていくので、そう考えるとやはり土曜もできる
だけとか、日曜もできるだけになりがちだと思います。やりたく
て集まっているのであれば良いと思いますが、それが部活動だと
いうところがなかなか難しいところだと思います。指導者の先生に
どう考えていただくのか、そこは相当教育委員会でそういう場を
作って、これからの在り方というのはこうするしかないんだよと
いうところのコンセンサスを図ろうとしていかないと、いくらビ
ジョンを示しても、現場がそうなるのかという不安があります。
もう1つはスライドの子どもの時間Re：デザインについて、学
校部活動から地域クラブ、民間スクール、個人の趣味、家族の時
間と流れていて、民間スクールは比較的最初から興味もあり、そ
れだけの時間的・費用的コストをかけたいと思われるご家庭は多
分行くと思いますが、ただやらないというだけに流れてしまうの
かどうかという問題は私もそう思いますが、もう少し学習センタ
ーとの連携は出来ないのかと思います。生涯学習課と学習センタ
ー。そこががちり毎週クラブ活動に参加したいというふうに最
初から思う人はいないと思うので、取っ掛かりを作る位置付けと
して例えば学習センターは基本的にある程度学校区と連携してい
ると思うので、お試的な経験会・体験会なものを色々な民間の
愛好家団体等と連携して、いくつかやっていき、それを学校に直
接アナウンスし、紹介して、そこに地域の子どもたちが行ってみ
ようとなり、そこで興味が深まればクラブに入るということもあ

	り得るし、民間スクールということもあり得るし、違うと思えば
	次のものに参加しても良いしというような学習センターが核とな
	る取っ掛かりの受け皿みたいなものがあつた方が後は地域展開と
	いうようにいきなりスイッチするより、具体的な興味関心がない
	お子さんに対しても有効なのではないかと思いました。
学校教育課長	土日のところについて慣習的と言ったところは少し乱暴でした。
	具体的に申し上げますと、平日の部活動と週休日の部活動を一体
	的に考えた時に週末の方を地域に預けるようにしてしまうと、例
	えば野球部、バスケットボール部の子どもたちが平日は基礎練習
	だけをやつて、週末は外部の方が入つて、地域のクラブで大会と
	なつた時に、教えている先生方は平日の練習は見るけれども、試
	合本番が見られないということになってしまいます。民間のクラ
	ブでも同じなので、土日何をしているのかというと大会や、或い
	はコンクール、試合というのも当然1つだと思います。私も実際
	学校現場にいたときに、先輩から代々言われてきたことは、1日
	練習を休むと回復に1週間かかる、1週間休むと1カ月、1カ月
	休むと1年かかると言われていて、その時の大会は無理と言われ
	ていた。そのためずっと休みなしで正月だけ休みということもあ
	つたので、そうではなくてそこは休養もしっかり取つてというこ
	とで考えていたので、土日の意義や制限も含めてですけれども、
	役割分担をしっかりとしていくということは大事だと思つてお
	ります。そこはもう少し丁寧に土日の在り方、平日との関連性と
	いうところは一体的に見ていきたいと思つます。2つ目の学習セ

	ンターとの連携というところですけども、私もその通りだと思います。これは教育委員会全体として学校教育課それから生涯学習課、そういったところが垣根を越えてやっていくべきだと思いますし、これは馬場市長の方からも学習センターや支所の機能をしっかりと使っていくというお話がありましたので、そういうところからも一致すると思います。その時に活動場所とか人材とか、そもそもの子どもたちがどのくらいいるのかということもありますので、そこも核にしながらか例えば学習センター同士も連携しながら、そういった組み合わせも模索して進めていきたいと思っております。
教育長	学校教育課長。この推進計画の策定に至った経緯についても簡単に触れていただけますか。
学校教育課長	文部科学省からも国として週末のこと、部活動の展開ということも進めていく流れにあったものでございます。多くの自治体がこの部活動を学校部活動から切り離すというところに特化して進めていますけれども、本市としては部活動に限らず子どもたちの自由な時間、自由な学びというところを作っていきたい、そのような契機にしたいということでこの計画を策定いたしました。
教育長	福島市地域クラブ活動推進協会のことについても触れていただけますか。
学校教育課長	今年度協議会を立ち上げまして、各団体や大学の先生、関連する団体の方からも意見を集めて協議会を重ねて、ここに至っております。子どもたちの部活動といってもスポーツだけではなくて、

	<p>文化・芸術活動等についてもしっかりと活動の場の設定をすることで進めておりまして、実際に令和7年7月25日に第1回目を立ち上げて実態の把握、今後の推進計画について10月、2月と3回の協議会を経まして今回の計画立案に至ったところがあります。</p>
立花委員	<p>休日に学校の部活動がなくなって、地域展開した際に、実際に保護者の方から最近お伺いしましたが、やりたいことがなくて、結局家で一日中ゲームだけしているというふうに心配している親御さんが実際数人いらっしゃって、親の心境としては土日部活動がなくなって、自由に学び自由に過ごす時間を増やしましょうと言われたその自由が、有意義にうちの子は過ごせないのではないかと心配している親御さんがいるというのも事実というのが心配な部分です。自由に何でもしたいことができるようになった時に、それを有意義なものにできる子どもにしていかなければならない。そこはすごく難しいなと思いました。何をしてもいいかわからないと言ってその時間をただ無に過ごしてしまうことのない、ゆっくり過ごすのも大事ですけれども、何もすることが浮かばなくて何もできないからゲームしていました。それで終わりになるような子どもが増えてしまったのでは、もともとの趣旨とは違うという心配が1つあります。次に地域指導者の方について、実際うちの子どもたちが経験したことなのですが、高校の時に外部のコーチの方が入って、かなり一生懸命に指導していただきました。そのコーチの方が家族の問題やお仕事の問題で1年生の途中から指導がで</p>

	きないとなってしまって、その後任の指導者も見つからなくて、
	その年1年間を子どもたちが棒に振ってしまったとことを実際経験しておりますので、地域指導者の方の質の向上だけではなくて、
	地域指導者の方たちが続けていけるとか、その方に何かあった時に直ぐに後任の方が入れるような仕組みもしっかり作っていただけないと上手く進まないのではないかと思います。それを踏まえてこれから部活動という意味が少し変わってくるのかなと思います
	ので、部活動というのは何なのかというのをもう少ししっかり皆さんの共通認識にしておかないと単純に部活動を地域展開しますと言われたときに昔と今の部活動は違っているということを共通認識にしておくこと必要があると感じました。
学校教育課長	1つ目の何もしない、ゲームをしているというのは、ポイントが違うかもしれませんが、不登校もそうだと思います。家においてYouTubeやゲームも沢山あるという中で時間が過ぎてしまうということがあります。同様のものとしては学校の取り組みとしては宿題をなくすという取り組みと似ていると思います。宿題をなくすということで麴町中学校の工藤先生が本に書かれたのをきっかけにいくつかの学校でも宿題をなくしたが、なくしただけだと何もなくなってしまう。そうではなく、もっとやりたいことを授業の中で種を蒔きながらおうちで進めて、それをしっかり広めていくような趣旨の理解や事前の指導、充実した授業というものが大切ということは当然のことですので、これらについても活動の在り方というものをしっかり振り返りながら進めていく必

	<p>要があると思っております。2つ目の指導者の確保というところでは、外部指導者がいるケースはまだ良い方で、例えば行った先の教職員の中で適切な指導ができない、素人の方がやるという場合もありますので、そういった意味では人材バンク或いは研修というものをしっかり確保していきたいと思っております。その時に研修や資格を取るための経費の補助も本当は必要だと思いますが、そこが難しいところと思っております。先程申し上げたハブとなるサイトの中に、人材バンクのところの項目もありまして、例えばサッカーといったときに50代男性でこういったことができます等、そういった個人情報も配慮しながら一般の方々も見れて、連絡を取ってみたい、そういった人材バンクというものも併せてやっていきたいと思っております。全体を纏めた時に、部活動とは何なのか、子どもたちにとっての自由な時間、自由とは何なのか、やりたいことは何なのかというところにも少し幅を広げながら進めていくわけですが、令和10年度までに段階的に進めていきたいと先程スケジュールをお示しいたしましたが、それは単純に1回休み、2回休みということを進めていくのではなくて、その中で部活動の在り方とか良さ、どんなことをやってみたいということもしっかり種を蒔いて、しっかりと育てて、そして令和10年度を迎えたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
宗形委員	<p>子どもたちの社会的活動について、他の市のことを例に出すと、子どもたちが各学校、中学生が全部集まる機会があって、そこで市の施策や問題になっていることを話し合う機会に立ち会うこと</p>

があり、その時に子どもたちが学校を越えて関わりたいとか、学
校を越えてやりたいことがあるが、なかなか学校の中で認められ
ないと言っていました。部活動について変えていくとか、子ども
の時間R e：デザインがあった時に、別の受け皿というか、並行
して行うことは難しいと思いながらも、部活動でスポーツを一生
懸命やりたい子、文化的活動を一生懸命やりたい子、社会的な活
動をやりたい子みたいな子がいるのではないか、イベントを企画
するとか、自分たちでできることをやっていきたい、例えば社会
的な活動として福島市のごみ問題を解決するために何かやろう等、
そう思っている子も実はいるのではないか思うので、そういう窓
口も1つ、チャンネルもあると子どもたちにとって色々な活動の
幅が広がるのではないかと思います。もう1つ、私が心配する
のは圧倒的に部活になんとか入っている、生活に張りがない、
みたいな子は一定数いると思う。宿題にも気持ちが向かない。部
活がなくなったらとにかくゲームをしている。うちに籠っている。
あとは友達と遊んでいるくらいで時間を費やす。その子どもたち
が課題だと思います。そこは中学校の学校教育活動そのものが変
わらないとなかなか変わりにくいと思っていて、今回部活動を変
えるというのは先生方の意識改革、子どもたちが自分で決めて何
かをするということをしごく大事にするということが学校教育に
も影響を与えていかないと、単なる部活の変革だけを狙っている
ものではないと思うので、保護者の理解と教員の理解というのは
しごく大事だと思う。そこをセットでやっていかないと今の新し

	い教育を保護者から見ると、勝手なことをやっているのではない
	かと思ってしまうということが全国的に聞くので、その理解とい
	うところもすごく大事にしていかなないと子どもが苦しくなると思
	うので、その辺りも併せて考えていただければと思います。
学校教育課長	子どもたちの声を聞くというのはすごく大事であり、面白いと思
	っております。今回橘高校と福島東高校の生徒さんの話を聞きま
	したけれども、1番中学生に近い世代なので、そこはしっかり声
	を聞きたいと思っております。併せて橘高校、福島東高校だけで
	はなくて、様々な高校の生徒たち、我々も尚志高校の生徒さんのお
	話も伺いましたので、そういう場を作っていきたいと思ってお
	ります。中学生についても生徒会交換会という場もあります。我々
	が手を入れる場ではございませんが、中教研という活動を通して
	行っておりますので、そういったところで子どもたちの意見を聞
	けるようにしていきたいと思っております。またごみ問題のはな
	しがありましたけれども、実際に大鳥中学校が地域の方と協力し
	ながらイベント作りということを行いました。そういったことも
	1つのモデルとして進めていきたいと思っております。これは日
	頃の学びの中で週末の時間や長期休業の中でやってみたいことを
	醸成していく1つの現れだと思っておりますので、横展開できるように
	していきたいと思っております。併せて何のために行うのかとい
	うところについて、子どもたち、教員、保護者へもしっかり周知
	をして次へと段階を上げていきたいと思っております。
教育長	今いただいたご意見なども踏まえながら、これでコンプリートさ

	れたというよりは、進めながら随時状況などを教育委員の皆様にお伝えをして、そこでご意見等をいただきながら改善していくという方向で進めてよろしいでしょうか。
各教育委員	(了承)
教育長	異議ないため本議案を原案のとおり承認する。
	議案第26号 職員の人事異動について
	教育総務課長 (教育委員会臨時会提出事項P4により説明)
教育長	異議ないため本議案を原案のとおり承認する。
	議案第27号 訴えの提起について
	学校教育課長 (教育委員会臨時会資料P6により説明)
教育長	異議ないため本議案を原案のとおり承認する。
	午前10時48分休議。
	午前10時49分再開。以下、非公開。
	以上終了 午前10時54分
	記 録 渡邊 貴博
	委 員
	委 員